

# 宇利城址

築城年代は明らかではありませんが、宇利城址は、典型的な山城の形態をしていて、戦いの様子もはっきり記録に残っているため、学術的価値が高く、県指定史跡の第1号として認定されました。今でも、本丸周囲の土塁や石垣などを見ることができます。

**本丸** 標高160m、周囲に土塁を巡らし、東西40m、南北36mの平坦地で「宇利城址」「熊谷備中守實長碑」の碑がある。北端に物見櫓と思われる高さ1.5m、幅20mの土壇がある。本丸の北は10mほどの急崖となっていて、空壕を隔てて納戸平なんどたいらに続いている。納戸平は、東西25m、南北20mで北に約6mの空壕からぼりがあつて裏山に続いている。

**二の丸** 本丸の南東で長さ37m、幅19mの平坦地で「姫御殿跡」と呼ばれている。この姫御殿こしぐるわの南東に6段の腰廓おんまだいらがあつて、その先に「御馬平」と呼ばれる曲輪がある。

**井戸曲輪ぐるわ** 宇利城には三つの水の手があつて、その一つ本丸の南下に深さ3mぐらいの井戸がある。戦いに敗れ、この城を落ちのびるとき、宝物の金の茶釜をこの井戸に沈めたという。

